

教員採用合格者の経験を聞く

—「2012年度教員採用試験合格者の体験を聞く会」の記録—

(2012年3月16日)

校長先生に二次面接の指導を依頼

文学部日本文学科4年 K・S

皆さん、こんにちは。合格した都道府県は東京都、教科は国語で受験しました。教員採用試験が今年も7月に行われると思いますが、ちょうど1年前くらいから勉強を始めました。教材は、僕は協同出版の教職教養の参考書と、国語科の専門教養の参考書を使いました。東京都は教員採用試験のときに教職教養と専門教養の二つがあって、教職教養の勉強をするために、協同出版の教職教養の参考書だと若干補足し切れていない部分があって、同じ協同出版から出ているサブノートを使って勉強しました。

教員採用試験にはご当地問題のような出題が最後のほうに必ず含まれていて、東京都も30問中最後の5問くらいが東京都に即した問題が出るので、都の教育委員会の、たとえば東京都だったら東京都教育ビジョンというものがあるんですが、そのサイトを見ながら勉強しました。

専門教養については、自分は国語が得意なので、特別そんなにやったことはないです。でも、4年生の時期に、古文漢文の基礎という授業があるんですけれども、これは専門教養の問題を解くうえで、かなり役に立つので、国語科で受験を考えている人は、受ける機会があったらこの授業はぜひ受けておいたほうがいいかなと思います。

専門教養のほうなんですけれども、大学受験のときの赤本をパラパラ見ながら勉強しました。それを解けるようになれば、専門教養

に怖いものはないです。一次試験は筆記と論文なのですが、自分は論文があまり得意ではなく、得意ではないものを伸ばすのは時間がかかるので、筆記で100点取って、論文で60点取ってやろうという考えで勉強しました。本当は満遍なく勉強したほうがいいんでしょうけれども、割合としたら7:3くらいの感じで筆記を勉強していました。

二次対策ですけれども、東京都は面接が行われます。それで僕は東京アカデミーの二次対策講座というものを2万円かけて利用したんですけれども、あまり効果が得られたなどという実感はありませんでした。僕は二次対策でいちばん重要だと思ったのは、たとえば教育実習に行った先の校長先生に、二次対策をお願いして、足を使って自分で対策を行うこと。僕の場合は、友人のついでで、東京都の校長先生を紹介していただけたので、そういう横のつながりもフルに活用して、できれば受ける都道府県の校長先生に二次対策をお願いする。そうしたほうが僕はいいと思います。お金をかけるよりも足を使って二次対策はやっていってください。そのほうがきっと細かく指導してくれると思うので。

では、自分は得点、どれくらいで受かったかという目安だけちょっとお話しします。筆記が教職教養が88で、専門教養が72なので、8割くらい。論文のほうは自分で採点することができないので、でも東京都教育ビジョンを見たときに、東京都が目指している教育はこうだというもの必ず出ているので、それに即したかたちで論文を書きました。なので、あまり外れていることはないと思いま

す。自分の中では7割とかだと思っんですけども、両方で8割くらいを目安に取ってれば、おそらく僕たちの時は大丈夫だったのではないかと思います。8割を目指して勉強しましょう。以上です。(拍手)

私立高校への応募と受験の仕方

文学部日本文学科4年 M・A

皆さん、こんにちは。春から神奈川県のある私立高校で国語の教員になります。

最初に聞きたいんですけど、この中で私立の教員を考えているという人がもしいたら手を挙げていただきたいんですけど、いますかね。けっこういますね。私は私立なので、私立のを中心に話をさせていただきます。

最初に私の経歴というか、どういう感じで私立に受かったのかという話をします。まず私も公立の教員を目指してやっていました。勉強を始めた時期は、言うともみんなに笑われると思います、4年生に入ってからでした。過去問を中心にやって、それで一次の筆記は一応受かったんですけど、二次に面接と模擬授業とグループワークと論文があったんですね。そっちの対策をまったくやっていなかったの、二次は合格点にまったく届かず落ちました。なので、まだ対策を始めていないという人は、もう今日の帰りから始めてください。すぐに始めたほうがいいと思います。

みんなたぶんこの時期は筆記の試験に目が行きがちだと思うんですけど、二次の面接では自分がどういう人間であるかというのを聞かれます。そのへんは、就活と似ている部分があると思います。それを考えるのは、一朝一夕にはできるものではないので、早めにそういうのは考えておくべきだと痛感しました。これに関しては私立でもけっこう面接でそういうことを聞かれることがあると思うので、自己分析——私はそこまで就活はやっていないのでわからないんですけど——、自分

がどういうことが得意で、どういうことが苦手、どういう人間なのかというのは、早めに考えておいたほうがいいと思います。

私立の採用について少し説明します。公立の場合、だいたい7月に一次の試験があるんですけど、私立の場合はその学校によってさまざまなんです。早いところは5月とか6月くらいから採用を始めています。遅いところは、いまだにそれこそ非常勤とか、たぶん先生が育児休暇とかに入っていなくなったりするので、この時期に非常勤を募集しますみたいなものも、今の時期にもまだ出ていたりするので、採用時期は本当にまちまちです。もし自分の中で、ここに行きたいという学校があったら、早めにリサーチしておいたほうがいいと思います。私立の高校のホームページに求人情報が出ていたりするので、そこは随時チェックしておいたほうがいいと思います。

採用の流れですが、それも完全に学校によってさまざまです。履歴書を出して書類審査をやってから面接ですとか、筆記試験に行くところもあれば、いきなりもう、はい、すぐ来てくださいと言って、筆記をやって模擬授業をやるといところもあります。

私が受かったところは、書類審査はありませんでした。学校側から電話が来て、うちの試験を受けませんかと言われて、それで筆記試験をやって、模擬授業と面接をやるという流れでした。

電話が来るというふうに今説明しましたが、それはどういうことなのかというと、私立というのは、その学校ごとに採用をやっているんですけど、たとえば私がいる神奈川県では神奈川県私学協会というものがあります。そこに登録をしておくと、たとえば国語の教員が欲しいという学校が、その神奈川県私学協会の名簿を見て、それをもとに電話をしてくるということがあります。

私の場合、大学で剣道をやっていたのです

が、その剣道ができる先生が欲しいのでということで電話をもらったのです。そういうこともあるので、神奈川県私学協会や、あと東京私学協会が実施している試験があるので、それを受けたり、あとは求人サイトというか、マイナビの教員版みたいながあるので、そういうところに登録して合同説明会に行ったりもしました。このへんは本当に就活と似ていると思います。

だいたい流れとしては、そういう感じになっているので、私立を考えているとか、まだあまり今から考えたくないかとは思いますが、公立を落ちたら私立を考えようかなと思って人がいれば、早めにアンテナをはっておいたほうが良いと思います。

公立と私立で違うなと思うところは、公立というのは一括で、たとえば県で採用されるから、その学校に配属されるという流れになっていますが、私立はその学校、その学校で採用されるわけですね。たとえば、うちの学校は進学校ですとか、うちの学校は部活に力を入れていますみたいに、けっこう立場がはっきりしている学校が多いので、自分でどういう学校に行きたいのか、学校の教員になってどういうことがしたいのかということをちゃんと考えたうえで選んでいかないと、情報がいっぱいありすぎて、自分がどこを受ければいいのか、全然わからないという状態になってしまいます。自分がどういうことをやりたいのかというのをはっきりさせて、そのうえで自分からできれば学校を取捨選択できるくらいになるといいと思います。

先程も言いましたが、本当にまだ勉強を始めていないんだっただけならすぐに始めてください。4年生になってからでは遅いと思います。皆さんは公立の試験を受けるのかどうかかわからないですが、一応私の失敗体験として、反面教師としてもここに立っているのかなと思います。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

就活のなかで思い直して教師に

国際文化学部 4年 C・T

私は国際文化学部の SA のほかに、大学 3 年のときに国際文化学部の派遣プログラムでスイスに半年間留学していました。本当は国際文化学部のもう一個上の学年になるのですが、私は普通の人より 1 年長く 4 年生をやっていたので、進路について考える期間もほかの 4 年生よりだいぶ長くありました。そういうところについても、ちょっとお話しできればなと思います。

私は埼玉県の私立の中高一貫校に英語の教員として合格しました。最初にお伺いしたいのですが、この中で一般企業の就職活動もやろうと思っている人はいますか。

私は公立のほうの試験は受けていなくて、4 年生の前半は一般企業の就職活動をしました。それでなぜ教職に就くことになったのかというところから先にお話しさせていただきます。もともと教員になりたいとはずっと思っていました。昔、高校で教わった先生たちで、すてきだなと思った先生はみんな一般企業出身の先生だったということもあり、アナウンサーとかテレビの仕事、それから海外に行けるようなお仕事とかやってみたくて、興味のある仕事もたくさんあったし、何より子どもたちの前に立つ、その前に自分がまず世界のことをたくさん知っておきたいと強く思っていたので、教員になる前にどこかの一般企業で 3 年から 5 年くらい働いてから教員になろうかなと思っていました。

そう考えていたのですが、簡単に言ってしまうと、就職活動をするなかで、自分はやっぱり教員になりたかったんだというふう実感させられることが多々ありました。いちばんそれを強く感じたのが、とあるメーカーの海外営業の面接で、もう最終面接の一つ前くらいまで、けっこう進んでいたんです。英語の面接で、そんなに苦労することもなく、話

も和気藹々と盛り上がり、これはいい感じなんじゃないかと思った最後の最後に、「What is your dream?」と聞かれて、そのときにパッと思いついてしまったのが、「I want to be a teacher」だったんです。

それを思ったときに、自分にうそをついてはだめだと思って、企業の面接だったので、それは言わなかったんですけど、うそを言ってしまったので、相手もなんとなくそれを察したようで、案の定そこで落ち、もうそこできっぱり就職活動はやめて教員にシフトしようと思いました。

ただ、私はさっき言ったように、子どもたちの前に立つのにまだ経験不足なのではないかとかいろいろ悶々と考えていて、要は自信がなかったわけで、なので1カ月、中高生の海外ホームステイの引率に4年生の大事な夏休みに行ってきました。1カ月、アメリカで子どもたちがホームステイする姿を見て、やっぱりこの時期の子どもたちの成長をそばで見られる仕事がしたいと思って、帰ってきてから私立の教員採用に臨みました。もともと自分も私立の中高一貫校出身だったので、あまり公立は最初から考えていなかったのも、気持ち的にはすんなり私立の受験に入れたかなと思います。

私立の採用のシステムは、本当に学校によってバラバラで、最初は何をしていいのかわからなかったのも、とりあえず何か情報を集め、どんなものか全体像を知ろうと思って、<教員採用.jp>の無料の講習会みたいなものがあって、それに1回だけ参加しました。そこでなんとなく私立の教員採用のシステムとか、どんな感じなのかという全体像がつかめたので、合同説明会に行ってみたり、いろいろな学校のホームページをのぞいたり、各都道府県の私立学校協会に登録していろいろな情報集めをしました。

今受かった学校に関しては、私も学校のほうから電話をもらって受けに行った感じです。

私のところは書類審査というか、とりあえず履歴書を出してくださいと言われて、あとは来てくださいと言われていたので、行ったら、その1回の面接で合否が決定するという採用方法を取っていました。面接で聞かれたのは、自分がどういう人間で、自分がどんなことを大切に思っているとか、あと教育というものに関して、どんなことを考えてきたのかとか、そういう感じでした。

一般企業で就職活動をやっていたので、面接自体にも慣れはありましたし、いろいろ考えたうえで私立を受けよう決めていたのも、教育に対してとか、なぜ私立の学校を受けるのか、そういうことも特に迷うことなく、自分の考えを話せたのがよかったのかなと思っています。あとは模擬授業があって、模擬授業の準備に関しては教職課程準備室で予約すると借りられるので、だれもいない教室で一人、黒板を使って授業の練習をさせてもらいました。

先程の私立の採用システムの話の中で一つ補足すると、採用形態が公立より少し多く、非常勤、常勤、専任といろいろあります。だいたい学校はたぶん常勤スタートなのかなと思います。常勤で3年とか勤務が継続できたら専任に格上げするようなかたちになっているところが多いみたいでした。

結局、教職に就くことにしましたが、ほかの人よりだいぶ長くいろいろ迷いました。でもその迷った分、遠回りした分が今の自分にすごく活かしているのかなと思っていますので、あんまり一般企業の就活とか考えていない人も、一般企業でやってみてから考えようと思っている人も、やることはいっぱいありますが、チラッとだけでも周りのみんながやっている就活はどんなものなのかとのぞいておくと、自分が子どもたちを教えるときに、先生になるという子ばかりではないと思うので、いろいろアドバイスしてあげられるようになるかなと思います。そういうことも教職に就

くにあたっての面接にもすぐ生きてくると
思うので、ぜひ勉強だけではなくて、いろ
ろなことに今の時間を使って対策していっ
てほしいなと思います。ありがとうございました。
(拍手)

友人とグループを作って勉強会

国際文化学部科目等履修生 Y・M

皆さん、僕は、横浜市教育委員会から中高
の英語科教員として合格をいただきました。
今日お話するのは、ざっくりまとめて2点
で、採用試験の勉強の準備についてと、あと
試験の内容、実際、僕が受けてみての実情を
お話ししたいなと思います。

まず勉強をし始めた時期ですが、1年前の
年明けくらいでした。でも実際に教育実習も
あったので、本腰を入れて勉強し始めたのは
6月という感じだったので、なかなか遅いス
タートだったかなと思います。使った教材は、
協同出版の過去問を出しているところの教材
で、たまたま織り込みか何かで通信講座もや
っています、添削問題なんかもやっています
みたいなのがあったので、じゃあ、それをち
よっと購入してみようかなと思って、けっ
こう高かったのですが、半年分の通信講座を受
講することができました。

毎月いろいろな教材を送ってきて、いろ
ろな添削問題があったりして、けっこう大変
だったのですが、やっていて気づいたのが、
使われている内容自体は、どんな教材、過去
問でも、問題集でも、実は一緒なんです。た
だ、書き込み式なのか、本当に参考書なのか、
はたまたサブノートみたいなかたちなのかと
いう、ただ形態が違うだけなので、今日以降、
勉強しようかなと思われている皆さんは自分
にどういった教材が合っているのかというのを
ぜひ吟味してください。たぶん人それぞれ教
材の好き嫌いはあると思うので、古本屋に行
ったりして、教材を買うのはちょっとお金が

かかりますけれども、これはしかたがないこ
とかなと思うので、ぜひ吟味して、自分に合
うものを探していただけたらなと思います。

勉強法については、自分に合った教材をや
り込んで、過去問を覚えるつもりで、何回も
何回も解きました。覚えてくると、どこをつ
いてくるかというのがなんとなくイメージが
できてきて、たとえば教育法規で学習指導要
領の文章とか、これはそのまま覚えてしまっ
たほうがいいのかも、みたいな感じで見えてく
るので、過去問の勉強を充実させればいいか
なと思います。

実際の試験についてですが、横浜市はラッ
キーなことに一次試験と二次試験の点数を一
緒にしない。つまり一次試験は一次選抜のみ
の点数だけでカウントして、二次試験の合否
には持ち越さないという利点があったので、
僕はもう割り切って、一次試験の専門の英語
と、教養科目は受かる程度の力で頑張ろうと
思いました。

実際、結果が来て合格だったんですが、今
年の合格点が2科目、100点ずつで合計200
点で、116点がボーダーでした。6割いっ
ていないくらいです。友だちのうわさで8割
みたいな話を聞きましたが、でもそれは十分条
件であって必要条件ではなかったもので、皆
さんも勉強するときは8割取らなきゃいけない
というつもりで勉強するよりは、自分の得意
な分野、苦手な分野、これから勉強していけ
ばいっぱい出てくると思うんですが、それを
一つずつ、今日はこれができるようになった、
これが覚えられたというのを、チェック項目
を作るわけではないですが、一つずつ自信に
して毎日勉強してくれたらいいかなと思い
ます。

筆記よりも何よりも、やっぱり二次試験の
面接対策がすごく大事ななと思いました。実
際、二次試験の配点の度合いでも、面接は4
割を占めるので、面接でいかに自分の言いた
いことが言えるかというのは、すごく大事だ

ったと思います。そのために僕は同じ教職のメンバーでグループを作って、週に1回、2週に1回くらいの割合で勉強会、面接の練習や模擬授業の練習を何度かやっていました。実際、これが本当に効果を発揮してくれて、二次試験の前の週に自分たちで練習した模擬授業がそのまま当日の試験でも使えたということがあったので、やっぱり場数を踏むというのは本当に大事なことだと思いました。

ほかの合格者の方とも共通するんですが、やっぱり面接で自分はどのような教師になりたいのかというのを、ぜひこの期間に自分の中で吟味してほしいなと思います。僕は科目等履修生で、学部3、4年のときは就活もしていました。結果から言えば内定はいただけなかったです。

そのときに本当に自分は何をしたいのかというのをひたすら考え続けました。学部4年間を通してボランティアで教育事業の企画運営というのをやっていました。それがやっぱり原動力というか、子どもたちと実際接していて魅力を感じたし、またそういう場所に戻ってきたいなという気持ち、子どもたちと一緒に学び続けられる人間になりたいなと思って教職を科目等履修生で取ろうと決めて、今回、晴れて合格をいただきました。

勉強していたり、実際受けてたり、就活をしたりして、たぶんうまくいかないことのほうが多いと思います。でも、それで嘆くよりは、それが自分の人生や自分の生き方にとって、どういう経験になるのかなというのを考えたほうが建設的かなと思います。そのときの失敗からどうやって学ぶか。その失敗をどうやって自分は乗り越えて、どんな人間になりたいのかというのを、試験までもう半年を切っていますが、ぜひ吟味して、時間をかけて自分と向き合ってみたり、またグループを作って友だち同士で話し合ったりしていただけたらなと思います。以上で終わります。ありがとうございました。(拍手)

受験準備では領域毎の力の配分を

社会学部メディア社会学科4年 T・S

皆さん、こんにちは。私は採用試験の準備と、その内容について話したいと思います。私は神奈川県高等学校の日本史で合格したんですが、採用試験の準備はだいたい1年前くらいから少しずつ始めて、試験が近づくにつれて勉強の量を少しずつ増やしていくというようなかたちで勉強していきました。

社会科は専門は覚えることがたくさんあるので、最短距離で合格できるように勉強していかないと、何年も受けている人になれない部分が出てくるかなと思ったので、できるだけ最短距離で進めるような勉強を意識しました。

それがどういう勉強だったかという、いちばん大事にしたのは過去問の分析だと思います。自分はいろいろな県を受けようと思っただけなんですけど、結局、神奈川県しか受けませんでした。なので、とにかく神奈川県でどうやって受かるかということを考えて勉強していきました。

神奈川県は一次の結果が二次には行かないので、一次試験で何点取ればいいのかということも、ホームページを見ればある程度確認できるかなと思います。だいたい今年のボーダーは7割くらいでした。それでもまあまあ高いほうで、だいたい6~7割あたりがボーダーラインになっていて、そこに向けて合格するために勉強していくというかたちになります。

一般教養、教職教養、専門教養と三つに分かれているんですが、一般教養に関しては、自分は正直、あまり勉強はしていません。参考書に載っていて、あとは問題を解いたときに何か間違えたということがあれば、そこは復習しますが、範囲が広いので、あまり結果としては伸びない、伸びづらいところかなと。それよりも伸ばしやすいか、取らなければ

いけないのは専門教養と教職教養かなと思います。特にいろいろな都道府県を受ける方がいらっしやるとありますが、教職教養という科目に関しては覚えることというか、出ることがわりとはっきりしているの、教職教養で自分は9割くらい取ったんですが、そこで点数を落としていると、かなり苦しいと思います。

教職教養は、どんな教材を使ったかという、いろいろなものを使いましたが、主に都道府県別に出ている参考書、あとは東京アカデミーから出ているサブノートみたいなものは使いました。そこである程度のことを頭に入れて、そのあとに問題集、都道府県別の過去問を買って、とにかくやってみました。なかなか最初は点数が取れませんでした、まずは最低限のことを覚えたら、あとはもうどんどん解いていけば、ある程度、点数が取れるようになると思うので、そこが大事になるかなと思います。

専門教養ですが、社会科を受けるという人がけっこう多かったと思います。自分は高等学校の日本史で合格と言いましたが、試験では世界史も地理もやるんです。日本史、世界史、地理を全部高校で履修しているという人います？ 高校で日本史、地理、世界史、全部とりあえずやったという人は、中にはいると思いますが、少ないと思います。

自分の場合、日本史と、世界史Aはやっていましたが、正直、ギリシャの歴史とか全然知らない状態からスタートしたので、日本史、世界史、地理、この三つから点数を取っていくと考えたときに、どれで大体何割くらい取れば合格するのかということですね。そこをしっかりと分析することで合格に近づくと、思います。自分としては、一般と教職ではほとんど落とさないようにして、あと日本史も落とさないようにして、世界史がひどくてもなんとかなるように頑張ろうというのが目標でやっていたので、そのへんの分析ということが

とても大事だと思います。

専門教養は、使った教材は同じく都道府県の参考書と、あとは東京アカデミーの問題集なども使いましたが、大学受験用の参考書は自分で買って覚えました。日本史に関しては家にあるものを使ったんですが、世界史や地理も一からセンター試験に向かおうみたいな東進予備校が出しているようなものを使って、まず専門の基礎から入っていくようなかたちでやりました。一次試験に関してはそのようなかたちです。

二次試験も神奈川県は点数の配分がわりと特徴的で、面接が200点で、模擬授業が60点、論文が40点という配分で、論文だけ一次と同じ日に行われるので、論文はどうしても気にはなるんですが、40点しか入らないので——実際、点数開示もできたのですが——、あまり合否に響かなかったかなというのが感想です。一応40点満点で、自分は正直、ほとんど勉強しなかったので20点しか取れなかったんですが、模擬試験を受けていくなかで、ある程度やっておけば、そんなに重要視しなくていいかなと思っていて、いちばん大事なのは模擬授業かなと思います。

模擬授業もそこまで配点が高くないのですが、模擬授業を見てくださる先生が面接をしてくださるので、最初に模擬授業をやって、そこで悪い印象を与えてしまうと、もう取り返しがつかないと思うので、模擬授業をある程度、重要視してやっていくということは大事になると思います。模擬授業も冒頭10分しか見てもらえないので、どれだけ10分、おもしろいというか、目立てるかということが一つ勝負になるかと思います。

神奈川県は模擬授業はどことをやってもいいので、自分で前もって準備していきます。開国についてやりましたが、ペリーに関するクイズを出すみたいなかたちで、ペリーが開国時にラムネを持ってきたので、そのラムネのビンを持ち込みました。ほかの受験者もだい

たい何か小道具を持ち込んでいたので、そういうものも使ってフルにやっていくということでやってきました。

模擬授業をやるうえで、やっぱり練習しておかなきゃいけないかなと思っていて、自分は高校の先生に見てもらいました。教育実習が11月で、それもまだだったので、とにかく学校の先生にお願いして模擬授業の練習をさせてもらいました。特に東京アカデミーなどに行ってもいいのかもしれませんが、自分は学校の先生に頼りました。あとはやっぱり友だちと意見を交換しながらやっていったというのが実情でした。

模擬授業のあとに集団討論がありますが、集団討論自体もそんなに重いものではなく、まずは人の話を聞いているというところがしっかり見られているかなと思います。それが直接点数に影響するというよりは、しっかり話を聞いていて、それに参加していれば、そんなに差はつかないのかなと思いますので、あまりあせらずにやるということですね。

模擬授業の面接も9人グループで回っているんです。1人の授業について8人が生徒役というかたちですが、9人いた中で大学生が1人だったんですね。ほとんどの人は年上になるので、うまいことを言おうと思っても、たぶんそういうところでは勝ち目がなくなってくるので、とにかく大学生が大学生なりにできることをひたむきにやっていくということが大事かなと思いました。

面接もたぶん同じで、突然格好いいことが言えるということは絶対はないと思うので、大学生ができる、ひたむきさだとか、しっかり話を聞けるとか、そういうところを見せていくしかないかなと思います。ありがとうございました。(拍手)

図書館に通い一日12時間

キャリアデザイン学部卒業生 G・Y

皆さん、こんにちは。僕の場合は教員採用試験を受けるにあたって、卒業しているのちょっと特殊なので、どう教職に進路を進んだかというのを一つと、あと具体的な勉強方法、特に社会科なので実践的な、今でもすぐに使えるような必要なことを話したいと思っています。

はじめに自己紹介しますと、僕が受けたのは東京都と宮城県です。東京都は中高共通の社会の公民で受けました。宮城県は高校の公民で受けました。結果は東京都が受けまして、宮城県は一次合格して、二次は東京都のあとに辞退しました。

一つ目ですが、僕がなんで教員を選んだかということですが、もともと就職活動をしていました。もしかしたら、この中でまだ迷っている、ちょっと考えている人もいると思うので、話します。はじめに就職活動をしていて、実際に大学4年生の春くらいに内定をいただいて、その会社に進むとはっきり決めていました。そのまま教育実習を行って、会社の研修が始まって10月くらいに、会社の研修で簿記の勉強をずっとしていたときに、いつかは教師になりたいと思っていたけれど、まだ早いなとなんとなく思っていたので、すぐになるのは避けようと思って、なんとなく会社に入ってしまったというのが正直な現状です。

ルールから外れたくないというか、正直、教員採用試験を受けるのが怖かったです。特に社会科なんて十何倍もあるし、なかなか受からないというのも聞いていて怖かったので、一応やりたいことだったので会社に行き、会社で働こうと決めていたんですけど、その研修が始まってから、なんでこんな簿記の勉強をやっているんだろうとか、本当にやりたいのは先生なのになんでこうしているんだろう

と、思って、やりたいことと、やらなきゃいけないこととのギャップがすごく辛くなって、教員採用試験を考え始めました。そこから2〜3カ月くらい、内定を断ろうかどうしようか、すごく悩んでいろいろな人に相談しながら、結局、結果から言ってしまうと、内定を断りました。

そのあとすごく後悔しました(笑)。すぐに後悔しました。はっきり言って、自分の肩書きがなくなるのがすごく怖かったです。もう4月から同級生が会社で働いていて、僕は図書館に行くわけですよ。みんなが出勤するころ、図書館に行って勉強して、一人でお昼ご飯を公園のベンチで食べて、おにぎり二つとパン一つ、だいたいそのメニューで毎日過ごしたんですけど、ベンチに座ってパンを食べたり、たまにハトにあげながら、勉強しているわけですよ(笑)。そうすると、だんだん何やってるんだろうと思って、いちばん重要な時期をすっ飛ばして老後みたいな生活に突入しました。

ものすごく後悔しながらも、どうやったら自分が安定するかというのを考えながら、教員採用試験がダメでも、まだこういう道があるよとか、そういうのを用意しておいたんです。大学職員の道、あとは卒業後の就職先がどれくらいあるのかというのを全部調べて、自分を安定させて勉強しました。こんなかたちで教員採用試験の勉強を始めました。

次に勉強方法ですけれども、たぶん社会科はこの中にも目指している人が多いと思うので、冒頭に言ったように、実践的でいちばん必要なことをかいつまんで話します。今日、使ったものとか、どんなふうノートをまとめたかも、全部持ってきたので、このあと個別に聞いてくれれば対応します。

はじめに一つ覚悟しておいてほしいのが——覚悟ばかりになってしまうんですけども——、社会科の倍率が、年によっては15倍くらいあったりして、ほかの教科と比べて

かなり高いのです。それは最初から知っていたので、まず一つは、人よりもちょっとだけ多い勉強量というのを意識しました。それだけ倍率があるんだから、人と同じではダメだなと考えたので、たとえば僕は図書館に朝9時に行って、閉館時間の夜9時に帰るという生活を3月くらいからしていたので、一日12時間以上勉強はしていました。

その中でも密度を濃くして勉強をしてほしいと思います。たとえば時間で区切って、今日は12時間やったとか勝手に思わないで、今日は何ページから何ページまでやったと勉強量をやった分で計算して、たとえば問題集は何月何日に終わらせるとか、しっかり期間を決めて区切って密度も濃くして、さらに12時間くらいやると、たぶん受かるんじゃないかなと僕は思っています。それが一つ大事なことです。

二つ目、ノート作りですが、今日持ってきたんですけど、とりあえずはじめに勉強するのは、専門科目だったら教科書を使って、教職教養だったら、それも書店に売っていると思います、そういう教科書っぽいものを使って、あとはひたすら演習していました。演習で出てきた問題、間違った問題の解答とか間違ったところをちゃんと書いておいて、こっちに説明書きのところを書いておいて、隠しながら、もう一回間違えないようにするようなのをいっばいためたら、結局、教職教養の専門科目もそれが5冊くらいになって、本当に試験の最後のときまでそれを使って、こうやって隠しながら勉強していました。あとから、このノートを作っておいてよかったなと思います。

三つ目は、どこで点数を取るかということをやちゃんと決めておいてください。たとえば社会科ですけれども、東京都の場合ですが、社会科ははじめが共通問題で、日本史も地理も歴史も公民もすべて出るので、はっきり言って全部やっている暇はまったくないと思い

ます。僕の場合は世界史は全部捨てました。まったく勉強しませんでした。

それがいいのかわからないですけど、世界史を捨てて、共通問題で日本史と地理が出るというのがわかっていたので、まず過去問を見て、どこで僕は点数を取るかというのを決めて、まず公民で10割は取ろうと思って、公民はどこが出てでもいいくらい勉強しました。実際も10割取れたので、自分の専門は必ず10割取って、そのあとにその専門以外の地理や歴史はどう取るかといったら、地理の場合は共通問題だとデータばかりで、たとえばトウモロコシの主な輸入先はどこでしょうとか、そういったデータがほとんど出ているということに気づいたので、中学校の地理を全部勉強したわけではなく、データを中心に統計資料を使いながら、トウモロコシ、ウクライナとか、そういうふうパラパラしたのを使って、どこで点数を取るかというのを考えながら勉強しました。そういうふう自分で考えながら、全部やると時間がない気がするので効率的にやってください。

あとは、これ以上やることがないくらいまで突き詰めて、はっきり言って、社会に限っては本当に10割取れるくらいの自信でやったほうがいいと思います。僕も実際に受けたときに、教職教養90何点とかで、専門科目88点くらいだったので、それでもたぶん100点取れるだろうなと思ってやっていました。それくらいやらないと東京都はかなり厳しいなというのは感じます。

たしか9割取った友だちも落ちました。教職教養も専門科目も9割取って落ちた人がいたので、なんで落ちたかというのは、あともう一つは論文だったんですね。論文ができないと9割取っても落ちるということを知って、東京都はかなり論文を見ているなというのがわかりました。論文の書き方も後で何かあれば聞いてください。以上です。(拍手)

小学校教員資格認定試験に合格

経営学部市場経営学科4年 H・Y

私は横浜市の小学校に4月から勤めることになりました。大学では高校の公民と商業の免許を一応取りましたが、なぜ小学校を目指したかというお話と、あと私が受けた小学校教員資格認定試験というのは初めて聞く人も多いと思うので、どういう試験なのかを簡単に説明したいと思います。

まず大学2年生の5月ごろに初めて小学生とかかわる機会があって、横浜市の小学生だったんですけれども、何百人、もしかしたら1,000人くらいかもしれないんですけれども、一気にかかわる機会があって、そのときに日々成長していく小学生の姿にすごく感動しまして、小学生が持っているパワーはすごいなと初めてそこで感じました。それが3カ月くらい自分の中から抜けなくて、もしかしたら小学校の先生になりたいのかなというきっかけになったのが大学2年生の5月でした。

それから大学2年生の夏休みに私はインターンシップに行きましたが、インターンシップに行ったのは普通の企業なんですけど、専門学校に行きまして、専門学校の裏方をやりました。裏方というのは、生徒と向き合う場ではなくて、どうやって生徒に入ってもらうかの募集のほうなので広告をやらせていただいたりしましたが、やっぱり教育の立場に立つならば、生徒と向き合いたいなとそこで思いました。あとは、経営学部なので本当は最初の夢は商品開発だったんですけれども、はたして会社というところが私に合っているのかというのをインターンシップのときに感じて、大学2年生で、もしかしたら私は先生になりたいんじゃないかなと思い始めました。

そこでどういうふうになれば小学校の先生になれるのかというのをネットとかでいろいろ調べたところ、私の中で三つの選択肢ができて、一つ目が小学校教員資格認定試験を受

けるということと、もう一つは法政大学を卒業してから、また教育学部のあるところに行き直して進むという道と、あとはもう2年生の時点でやめて、違う学校に編入しようかなという三つの選択肢が生まれました。

だけど、やっぱりどれを選んでいいのか、とても不安で、まず教職の窓口に相談しに行き、そうしたら教員資格認定試験で先生になった人がいるというのを教えていただいたので、その人にお電話させていただいて、どういう感じで先生になったのかというのを聞いて、予備校へ行ってたよとか、そういう話を聞かせていただきました。あとは自分が小学校時代に習っていた小学校の先生にもアポを取って、2人くらいお話を聞きに行き、アドバイスをいただいたりして、そのときに私も認定試験を受けて先生になろうという道を決めました。

その認定試験は難しいと言われていて、一応1割しか受からないというのを聞いていたので、それは絶対自分は受からないというふうにしか思っていないくて、私は受験勉強としかしたことがない立場だったので、本当に不安で、不安だけ夢を追いかけたいという気持ちのほうが強かったので始めてみようと思いました。

認定試験は20歳から受けられるので、大学3年生の夏と4年生の夏で2回チャンスがあるということを知ったので、2回私はチャレンジしようかなと考えていて、大学2年生の11月に東京アカデミーに入りまして、11月から約10カ月間、予備校に通っていました。予備校は土日だけで、多いと土日両方9時間くらい予備校にいて、平日は大学の勉強をして、土日は予備校という、けっこう勉強尽くしにはなっていました。息抜きもしながらやっていたけれど、10カ月は私の中では長くて、けっこう何度も何度も泣いたり、挫折もいろいろあったりしました。

どのような勉強をしていたかというのと、ま

ず教職教養、教育原理、心理、教育史、教育法規という勉強と、あとは小学校全科、国語、算数、理科、社会、音楽、体育、図工、生活、家庭という9教科あります。だけど、認定試験はの中で自分で好きなのを六つだけ選びます。でも条件があって、二次試験で音楽と体育と図工を選ばなければいけないので、その中から二つは絶対選びます。音楽、体育、図工の中から二つ以上選んで、あと残りは好きな教科を選べるという感じです。

合格点は教職教養で60点以上、小学校の全科6科目を足した合計が6割以上で合格になるので、6割なら取れるんじゃないかという気もしながら勉強をしていました。一次試験が9月にあって、いちばん大変だったのが小学校学習指導要領で、学習指導要領はどの教科もあると思うんですけど、本当にもうほとんど文字だけなんです。何年生でこんな勉強をしますとか、どういうふうに勉強してください、何年生で何を教えてくださいというのを、本当に一言一句覚えていないとできない問題で、たとえば家庭科とかだったら、これには「家庭」と書いてあるんだけど、問題に「家族」とあったら×みたいな、同じことを言っているけれども、本当に一言一句覚えていないとできない問題があって、9教科中六つ選ぶんですけど、どれも20問ずつなんです。だけど、20問中半分はここから出るから、これを覚えられないとできないということで、本当に暗記との戦いでした。

ポイントはもちろんあるので、全部覚えるわけではないんですけど、暗記をしないとできないという感じで、あとの残りの10問は普通の高校3年生くらいまでのレベルなので、マニアックな問題ももちろんありますが、なぜなぜみたいな、「これが問題なの？」みたいな問題もいろいろあって、ピンキリなんですけれども、こっちとその勉強という両立がけっこう大変でした。

二次試験は10月中旬くらいにあって、体

育、音楽、図工の中から二つ選びますが、私は体育と音楽を選びました。体育は当日内容を発表されるんですが、マット運動とか鉄棒、ボールはバスケかサッカー、あとはハードル走みたいなのがあったので、事前に小学校を借りてハードルの練習をしたり、夜公園に行き、一人で鉄棒、逆上がりの練習をしたり、サッカーはできないんですけど、リフティングとかが試験になることがあったので、あざを作りながらリフティングの練習をしたりしていました。音楽は事前に課題曲が発表されるので、当日は練習したのを自分で弾き語りして歌って、音楽と体育合わせた点数で6割以上で合格ということになります。

あとは9教科から1教科選んで論文を書くんですけど、論文はこれに沿って書いてないと落ちるので、論文がとても難しいです。個人面接も一応あるんですけど、ここでの面接は採用試験の面接よりもとても簡単なもので、基本的なことしか聞かれないので、本当に変なことを言わない限りは落ちないと言われていて、二次試験は実技と論文の対策が必要です。

最後に三次試験というかたちで、実際に小学校に行って2日間授業観察をしたり、指導案の作成をしたり、あとはみんなで討論をしたりして、実際に小学校の現場に入って勉強しました。最終的には12月末に合否が発表されます。

私は予備校のほかに大学で勉強しましたが、平日は普通の授業があって、本当は夜はサークルで私はダンスをやっていたので練習があったんですけど、やっぱり両立ができなくなって、サークルを犠牲にしなければいけなくなっちゃったんですね。サークルを本当は続けて引退したいと思っていたけれども、やっぱり自分の将来の夢のほうが大切だと思ったので犠牲にすることも、もちろん出てきてしまいました。

あとは二種の免許しか取れません。小学校

に入ってからもう一種に上げるために通信とかをやって、一種に最終的に上げないといけないから、まだ最終的なゴールには達していないので、まだこれから勉強が必要です。

教育実習を小学校で2日間しかしていないので不安が残るので、自分でアシスタントティーチャーを週1回ですけれども、小学校の現場に行って、どういうふうな小学校なのかなというのを勉強する必要も今はあるのでやっています。

やっぱり資格を取るのはとても大変ですけども、最短で夢がかなうので、夢をかなえるためにいろいろ犠牲になることは出てきてしまいますが、頑張ってくださいと思います。ありがとうございました。(拍手)